



未来の福島
Fukushima Children's Fund
こども基金

未来の福島こども基金 2022年度活動報告

福島のこどもたちの未来のために

支援報告

いわき放射能市民測定室“たらちね”主催の 海洋調査双葉地区訪問に参加しました@2022/7/18, 19





「沖縄・球美の里」ファミリー保養



1月から「たらちね」が久米島の施設を運営しています。
写真は3月のもの。今日から2家族の保養が始まりました。

2023/4/14



こどもたちへの応援金

1, 学資支援

2, 病気のこども支援

- **1、学資応援金**
原則高校生対象
- 新たに高校1、2、3年生になる人
(個別の事情をお伺いして高校生以外にも特例あり、とします)
- 期間=高校を卒業するまで。(ただし、年に1回個別状況を確認)

- **2、病気の子ども支援**
- 身体に障がいのある未成年
- 18歳になるまで。(ただし、年に1回個別状況を確認)
- * どちらも、年に1回10万円を支援。
* 1家族できょうだいが対象になる場合もあります。
* 福島県内在住および県外に避難しているみなさまも対象です。



- 2022年7月9日、横浜のスペースオルタにおいてウクライナ緊急支援のイベントを行いました。
- チェルノブイリ子ども基金と当基金の活動報告のほかに、カテリーナさんによるコンサートがありました。今も私たちの団体のHPでカテリーナのバンドウーラの弾き語り『幸せの鳥』を聴くことができます。
- ズームと会場の両方でおおよそ200人のみなさんに参加していただき、収益金はチェルノブイリ子ども基金とカテリーナを通して、ウクライナの市民のために贈られました。

福島原発事故を思い出そう

福島原発事故から12年たって

- なぜチェルノブイリと比べて、被害が可視化されないか？
- ころころ特に母親の不安が子どもに影響する
- 避難(強制、自主とも)によって生活を奪われたことによる被害の補償がない。土地や住まい、仕事や職場、家族とその離散、生活の補償など。
- 放射線による被害に対する補償がない。土地や住まい、山林、川、田畑の放射線による汚染。田畑の除染は、表面の土を20cm程度はぎとって、フレコンバックに入れて強制避難区域にある中間貯蔵施設に置いている。住居の除染は、水で洗い流し、庭の土を除去しただけ。



講演会&総会 8/6(日)

児童精神科の渡辺久子医師をお迎えして、ころころの話をしていただきます。場所はまだ未定です。オンラインと会場の両方で実施の予定です。

～次の世代に放射能を正確に測定した科学的データをバトンタッチし、粘り強く子どもたちの平和な生活のために事実を伝えていく役割を日本の社会が真剣に実施しないと、これは世界の子どもたちに対する責任であると思います。